千葉・北下（きたした）遺跡（一）

1　所在地　千葉県市川市国分二丁目
2　調査期間　二〇〇二年（平14）一一月～二〇〇三年二月
3　発掘機関　㈶千葉県文化財センター
4　調査担当者　田井知二・山田貴久
5　遺跡の種類　遺物包蔵地
6　遺跡の年代　奈良時代～近世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

北下遺跡（一）は、市川市北西部の国分台と称される舌状台地の東側縁辺に隣接する標高三～四mの低地に立地している。本遺跡から約二〇〇m西側の国分台地上には下総国分寺及び国分尼寺があり、小谷津を挟んださらに西側の国府台台地上には、下総国府の所在が推定されている。

北下遺跡（一）の調査は、東京外郭環状道路建設に伴って実施された。確認調査を行なったのみで遺跡全体の様相は不明であるが、調査区北西隅から瓦窯の灰原の一部と思われる瓦の集積が検出された。瓦は、国分寺創建期のもので、調査区全体に散在している。瓦以外では奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・墨書土器や中近世の陶磁器などが出土している。

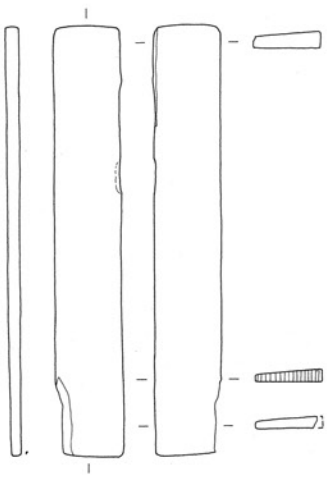
木簡は、遺物包含層に含まれていたもので、明確な遺構に伴って出土したものではない。

（東京東北部）

8　木簡の釈文・内容

(1)　129×20×3　011

・□
・□

ほぼ完形の柾目材であるが、下端が一部欠損している。墨痕は表裏に認められるが、現在のところ判読不能である。遺構に伴って検出された資料でないため、年代も明確ではない。

（栗田則久）